

スズキ、インドでのバイオガス実証事業を開始

- インド政府関係機関と覚書を締結 -
- インドのカーボンニュートラルおよび循環型社会の形成に貢献 -

スズキ株式会社(以下、スズキ)は、インド政府関係機関の National Dairy Development Board(全国酪農開発機構、以下 NDDB)と、インドのカーボンニュートラルの実現を後押しするバイオガス実証事業を実施することで合意、覚書を締結しました。スズキとNDDBは合併会社の設立も視野に、将来のバイオガス事業化に向けた取り組みと、その普及可能性の実証を行います。

インドは牛が多く、牛の糞尿には CO_2 の 28 倍の温室効果を持つメタンが含まれ、大気中に放出されています。このメタンの大気放出を抑制し、牛の糞尿に含まれるメタンから自動車用燃料を精製することを検討します。

大気中の CO_2 は光合成によって牧草に取り込まれ、牛の餌となります。牛から排泄される糞尿に含まれたメタンは大気放出されますが、その糞尿を回収し、バイオガスを人為的に発生させて自動車用燃料を精製して利用することで、メタンの大気中放出を抑制することができます。また、この燃料は大気中の CO_2 を原料としているため、カーボンニュートラル燃料です。加えてバイオガス発生後の残渣は有機肥料として利用でき、インド政府の有機肥料促進政策に貢献できます。

この取り組みをインド全土に展開することで、メタンの大気放出抑制やカーボンニュートラル燃料の普及だけでなく、農村地域の活性化や新たな雇用の創出、廃棄物の資源化、エネルギー自給率の向上、循環型社会の形成などにも貢献できると考えています。

スズキの鈴木社長は、「スズキは、インドでのカーボンネットゼロの実現を目指すと同時に、農村の活性化とエネルギー自給率の引き上げに貢献してまいります。」と述べています。

バイオガス実証事業の全体像

